

Life field of Creation

金沢21世紀美術館のデザイン・コンセプト分析；2018年増強版



←2015年1月6日発行の最新解説書
amazon.comの電子書籍Kindle版にて発売中！
目次+はじめに+イメージ図一部については
こちらのpdfでご覧いただけます。
下のQRコードから直接本棚にアクセスできます。
冒頭の10ページ位が試読できます。電子書籍を読む
には無料提供されているアプリをダウンロードして
ください。こちらからでもOKです。



書籍版も2015年4月15日発行 →
B5版×136 P 定価2,500+税
ご購入希望の方は直接弊所へ
メールでお問い合わせください。
問い合わせ先
taizan@gainendesign.com



2018年9月に、30年来の念願であった『概念デザイン』自体の商標登録が実現しました。これに関しては概念デザイン研究所ホームページ上で詳しく言及していますので、そちらをご参照ください。
<http://www.gainendesign.com/gainendesign.pdf>

商標登録を記念して、今後弊所ホームページ上にて概念デザイン論を拡大発信してゆく所存ですが、その皮切りに、ここでは最新の概念デザイン・メソドロジーを駆使して概念分析をした、「金沢21世紀美術館」の概念構造化仮説=コンセプト・パッケージを提示・公開させて頂きます。

同コンセプト・パッケージについては既に2005年に実施した現地調査を基に、2008年にコア・コンセプト+3本柱の概念分析を公開していますが、今回の概念構造化仮説分析はそれを大幅に強化した、コア・コンセプト+3軸・6本柱によって示しています。

今回の概念構造分析には空間の哲学性や商品開発上の観点も組み込んでいますので、各方面にお役立ちできる内容になっていると自負しております。

また、逆にこのような強固な概念構造化仮説を有する「金沢21世紀美術館」は時代を切り開く創造物であると確認できるわけです。

次ページに最新版の「金沢21世紀美術館」の概念構造化仮説=コンセプト・パッケージを掲載させて頂きます。2005年の概念分析プロセスはP3以降に提示しました。

因みに、あくまでも当該概念分析は、対象物としての「21世紀美術館」の客観的な概念分析で弊所独自の内容であり、当該対象物にご関係の各位との関りはございません。一部公式見解のみ引用させて頂いております。

以上、よろしくお願い申し上げます。

2018年10月9日 概念デザイン研究所 主宰 山口泰幸



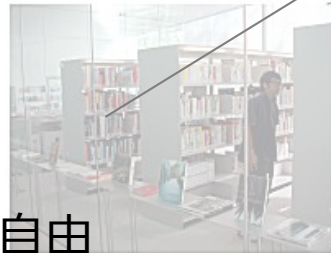
Simpleの追求

Plan

- 中庭 (光庭)
- 展示室
- 有料ゾーン

- 1 受付
- 2 アートライブラリー
- 3 カフェ
- 4 ショップ
- 5 ミュージアムショップ
- 6 レクチャーホール
- 7

意識する情報



曖昧性の中の自由

能動軸；形式性

具象的機能



意味軸；関係性



境界軸；観念性



無意識に感受する情報



Action Point
 美術という切り口
 による能動型空間が新しい

しかけの仕込み



2005年に、概念デザインが選んだ2005年時点の最高空間デザイン10選のコンセプト・リサーチを行った。本件はそのうちの一つである、金沢21世紀美術館のデザイン・コンセプトのコンセプト分析である。

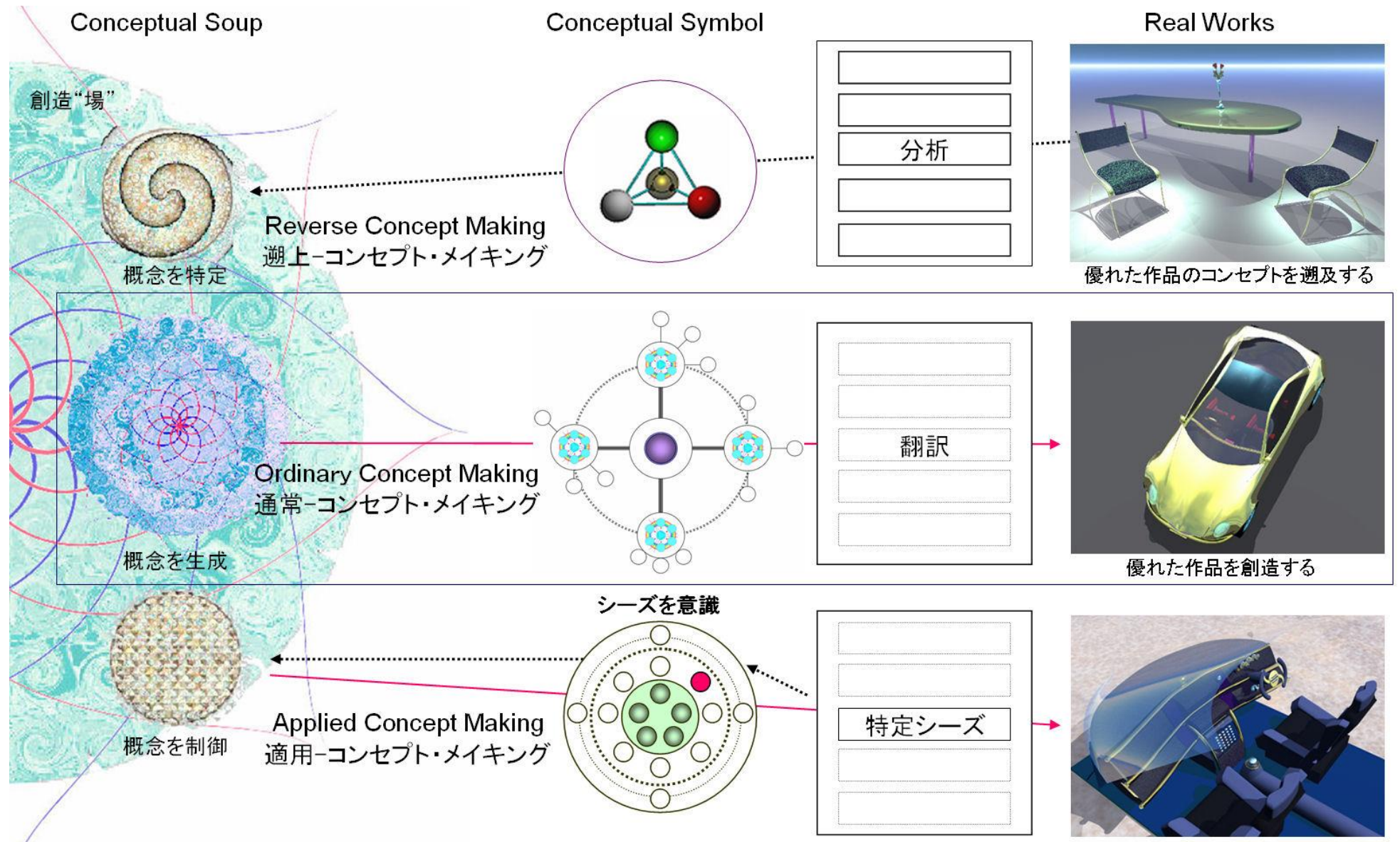
コンセプト分析は、概念デザイン研究所における方法論の一つである、RCM「リバーズ・コンセプト・メイキング」(R)で行った。この場合、デザイナー自身の考えや情報発信にかかわらず、概念デザイン研究所が独自で状況を調査・分析しその結果をコンセプチュアル・シンボル (R)およびコンセプト・パッケージ (R)にまとめたものである。

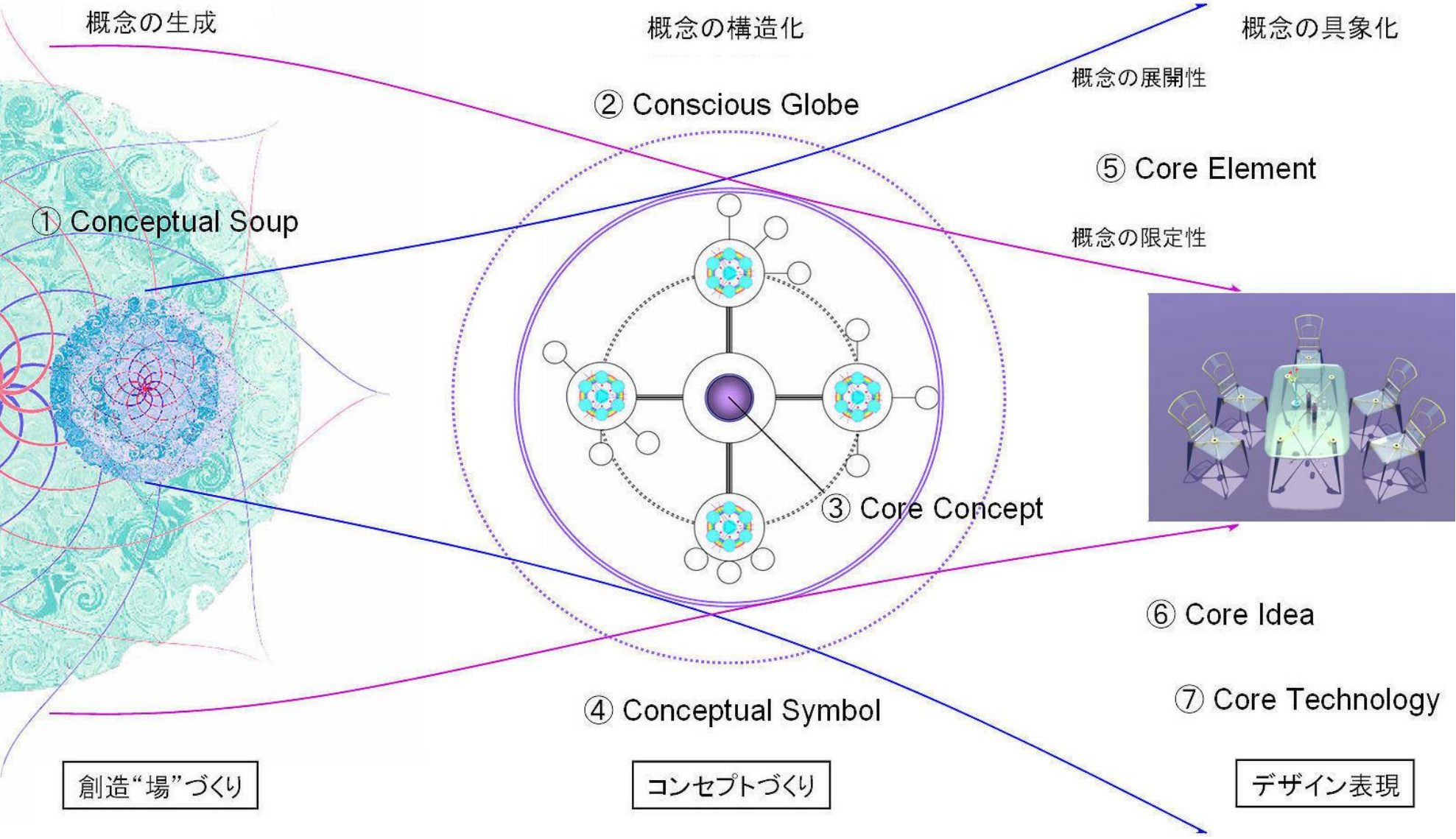
その後2010年に21世紀美術館のデザイナーである妹島・西沢両氏にプリツカー賞が授与され、それに伴いデザイン・コンセプト表明もなされたので、比較するために両者を掲げておく。

結論的には、その本質において概念デザイン研究所におけるコンセプト分析の精度と品質が高く、かつデザイナーの発信とも合致していることが認識して頂けると思われる。

本リサーチは当時概念デザイン研究所に特別研究員として在籍していた、松島奈津子氏によって調査・分析が実施された。本リサーチの内容には優れた分析と同時に、それをグラフィック・アートとして表現している彼女のコンセプチュアル・シンボルがあるが、コンセプチュアル・シンボル自体のレベルとしてもこれまでの中で最高レベルにあるものである。是非ご堪能いただければ幸甚である。







http://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=11&d=1

金沢21世紀美術館のコンセプト

美術館コンセプト

1 世界の「現在（いま）」とともに生きる美術館

金沢21世紀美術館は、世界の同時代の美術表現に市民とともに立ち会う美術館です。私たちのこの時代には、時間や空間を超え、従来のジャンルを横断する、様々な表現が現れてきています。これらの芸術活動にじかに触れ、体感することで、地域から、未来の創造への橋渡しをします。

2 まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館

21世紀の美術館には、教育、創造、エンターテインメント、コミュニケーションの場など、新たな「まちの広場」としての役割が期待されています。市民や産業界など様々な組織と連携を図り、全く新しい美術館活動を展開します。

3 地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館

藩政期から伝わる、工芸をはじめとする地域の固有文化が、多様化する21世紀にどのような可能性を持つのか、インターカルチュラルな視点に立って問いかける実験の場となります。

4 こどもたちとともに、成長する美術館

未来の文化を創り出す子どもたちに開かれた教室として、見て、触れて、体験できる最適の環境を提供します。子どもの成長とともに美術館も進化し、時代を超えて成長します。



建築コンセプト

『まちに開かれた公園のような美術館』

金沢21世紀美術館は、金沢市の中心部に位置し、だれもがいつでも立ち寄ることができ、様々な出合いや体験が可能となる公園のような美術館を目指しています。このため建物には表と裏のないガラスのアートサークルが採用され、トップライトや光庭など明るさや開放感にも十分に配慮しています。また、夜間開館や魅力的なショップ、レストランなど利用者ニーズに対応し、気軽さ、楽しさ、使いやすさがキーワードのこれまでにない美術館です。

多方向性=開かれた円形デザイン

三方が道路に囲まれている美術館敷地内にどこからでも人々が訪れることができるよう、正面や裏側といった区別のない円形が採用されました。建物が街と一体になるためのデザインです。

水平性=街のような広がりを生み出す、各施設の並置

展示室やカフェレストラン、アトライブラリーなど、それぞれに個性豊かな各施設はほぼ水平方向に配置。街のような広がりを生み出します。建物の回廊部分を一周すると、様々な特徴のある施設を巡ることができます。

透明性=出合いと開放感の演出

外壁や建物内の壁面の多くにガラスを採用し、「透明であること、明るいこと、開放的であること」を求めました。同時に、内部と外部など互いに異なる空間にいる者同士が互いの様子や気配を感じ取ることができる、出合いの感覚も演出されています。

設計者は、世界的に著名な建築家

美術館の建築を設計したのは、妹島和世（せじま・かずよ）と西沢立衛（にしざわ・りゅうえ）。二人は、これまで、ヨーロッパやアメリカで美術館など数多くの建築を手がけてきました。2010年SANAAとして、プリツカー賞受賞。また妹島和世は、2010年8月29日から11月21日まで開かれるベネチア・ビエンナーレ第12回国際建築展の総合ディレクターに起用されました。



多方向性=開かれた円形デザイン

1 世界の「現在（いま）」と
ともに生きる美術館



『まちに開かれた公園のような美術館』

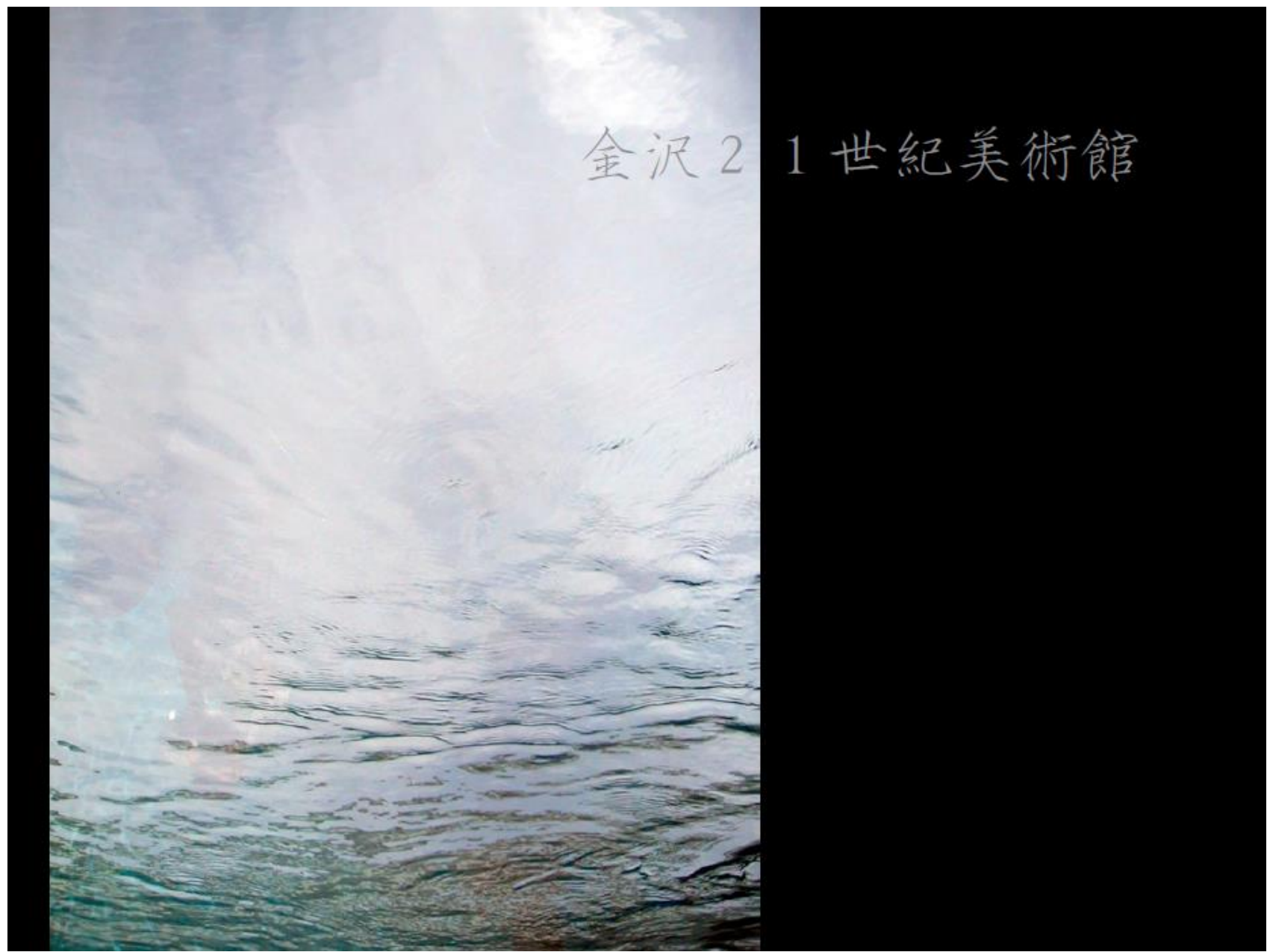
4 こどもたちとともに、
成長する美術館

3 地域の伝統を未来につなげ、
世界に開く美術館

水平性=街のような広がりを生み出す、各施設の並置

2 まちに生き、市民とつくる、
参画交流型の美術館

透明性=出会いと開放感の演出





近江市場



茶屋街



金沢 21世紀美術館

石川県金沢市。

伝統工芸や江戸のお茶屋街など様々な方面で古きものを残す伝統の街である。

その市街の中心香林坊に2004年10月、
「金沢21世紀美術館」がオープンした。

円形で庭に囲まれた広大な美術館。

美術館だけでなく地域のコミュニケーションの場としての
様々なスペースが盛り込まれ、観光客だけでなく地元の人々でもにぎわっている。
建築ユニットsannaによるデザインの美術館として話題になった。



Where?



JR金沢駅。
2005年春にリニューアルオープンしたばかり。
東口ターミナルから出ているバスで「香林坊」へ。



香林坊。
飲食店やショッピングビルが軒を連ねるにぎやかなエリア。
兼六園のほうへ道を入ると少し静かになる。



市役所が見えるとそのとなりに「金沢21世紀美術館」。
近づくまで建物の全貌がわからない。

〒920-8509 石川県金沢市広坂1丁目2番1号
Tel : 076-220-2800 / Fax : 076-220-2802
E-mail : info@kanazawa21.jp

Plan

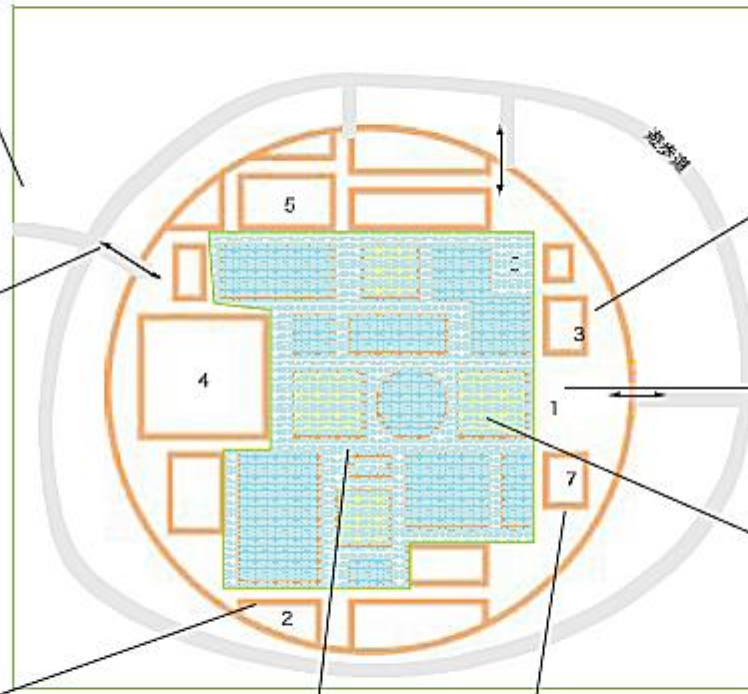


中庭 (光庭)

展示室

有料ゾーン

- 1 受付
- 2 アートライブラリー
- 3 カフェ
- 4 市民ギャラリー
- 5 シアター
- 6 ミュージアムショップ
- 7 レクチャーホール



ACTI N POINT

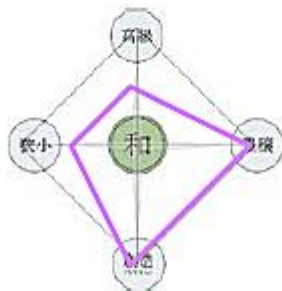
【アクションポイント】

新しいなにかがおこる。
次の何かへすすむ力の作用点となる、原動力空間。

金沢21世紀美術館には、
「美術館らしい」オペレーションがない。
入り口はいくつもあり正面もなく、よって順路もそう決まっていない。
来た人の気分で動いて、何かに出会う。そこで触れて感じる。
自分の中でぽつんとあった何かの芽がこの様々なしなやかに触発され、
作用点～ACTION POINT～となり新しい発想や発見、感情が生まれる。
日常では得られない新鮮な気持ち。

何も強制しない、
自由であること。
五感を通じて入ってくる情報で自分のなかで何か発見や感動があること。
そのためにシンプルなカラーやフォルム。

どのみちを通るのか、
その日の気分で違えば、そこで新しい発見がある。
天気で印象が変わる。それを楽しんだり、
明日の自分にアクションをかける場所となる。

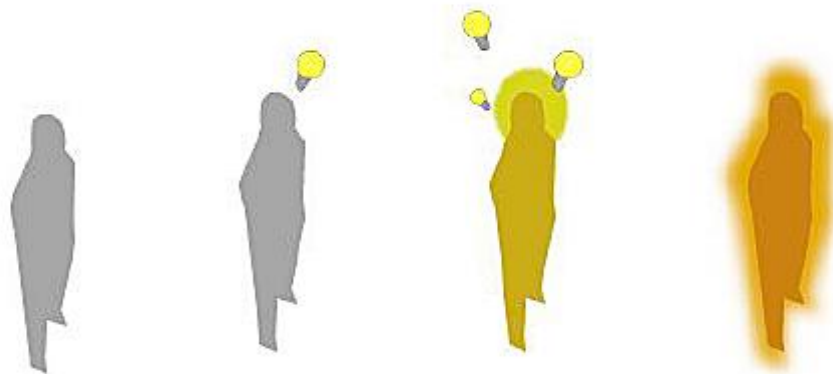
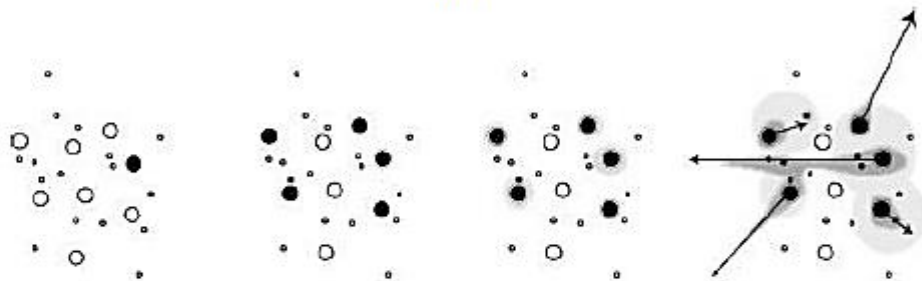


POSITION



ACTIVATION
POINT

の発生



活性化!



CORE ELEMENT

白い「柱」

周囲をカーブガラスに囲まれた美術館。

「建物の中にいる」という感覚がまるでない。不思議な空間である。

その中で、唯一視覚的にこの建物を構成しているものは展示ルームをはじめとする大小様々な部屋である。

平屋。

壁で仕切らず、柱を立ててその「間」を室内空間とする日本建築のように、

展示ルーム一つ一つがまるで柱のように建物と天井を支えている。

順路のないこの美術館で柱と柱の間を気ままに歩き、なにかに出会う。

スゴロクのような予期しない偶然性が楽しい。

どこの角でも二回くらい曲がると

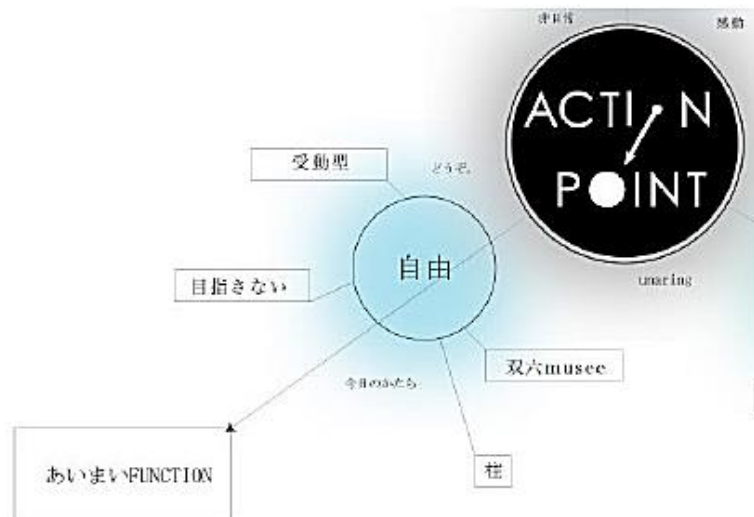
光あふれる外部の景色や中庭に出くわす。

通路のようなところを歩いていると突然、広いボリュームが出てきたり

同じところに何度も来てしまったり。



柱の「間」から生まれた様々なボリューム



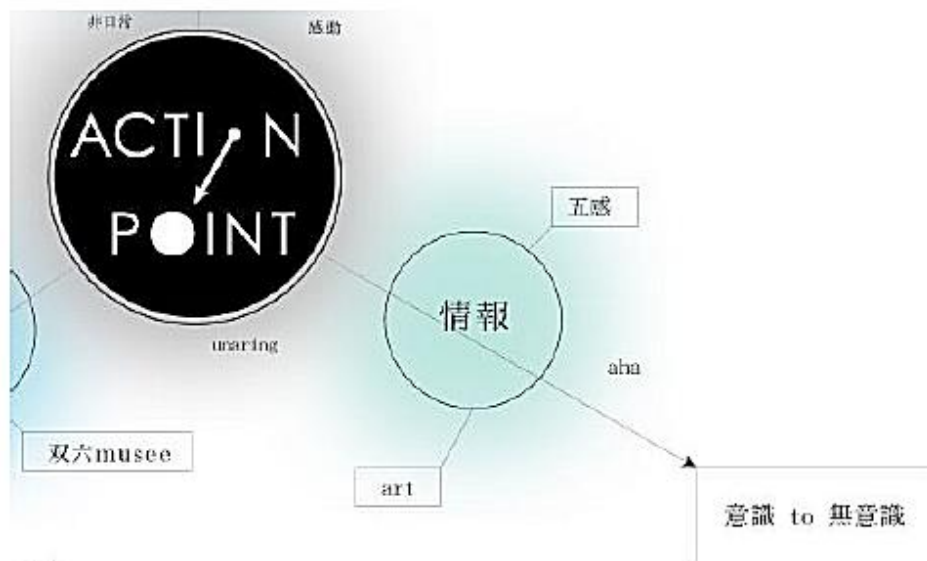
あいまいFUNCTION

CORE TECHNOLOGY

ガラス

地面から天井までピタッと張りつめるガラス。
それでいて周囲の景色、光を遮ること無く思い切り取り込む。
それらは白に移り込みいろいろな表情を生み出し
内部の私たちにその先の景色を予測させる。





柱

意識していることはもちろん、
無意識の中に入ってくる情報。

それぞれの人が
ちょっとしたものを発見したり、気づいたり。

自然光の差し込む展示ルーム

天井はフロストガラス、
その上に蛍光灯が設置されているが、その合間から自然光が入り込む。
優しい光につつまれた空間。

常設、企画展があり、企画によってレイアウトが変わる。
部屋の形はFIXのため変わるの私たちの動線。
もちろん順路は自由であるからそれも人それぞれである。
受動的ではない。
あくまで自分の行きたい方へすすみ、部屋に展示してあるものをみる。
展示室と展示室の間に点在する中庭や休憩コーナーが心を和ませる。

展示を見る姿勢が無意識に変わる。
堅苦しくなく、リラックスした状態で五感で情報を受け入れる。



緑のタブストリー

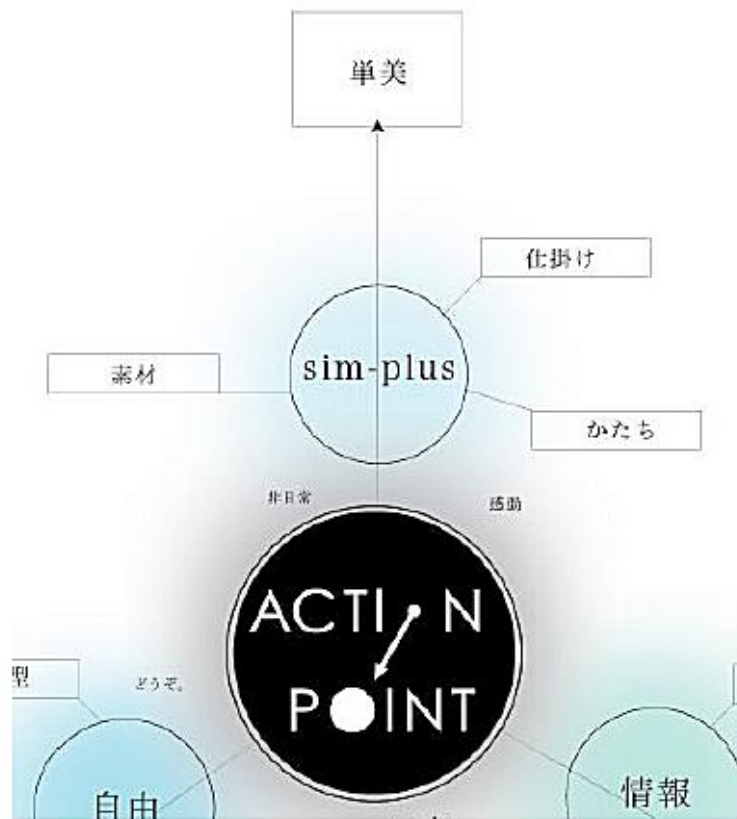


緑のタペストリー

中庭に突如として緑の植物が作り出す大きな一面が現れる。
数えきれない数の植物がぎっしりと生え、
中庭に降り注ぐ光を十分に吸収している。
風に揺れ、光と水を十分に浴び、
成長する緑のタペストリー。

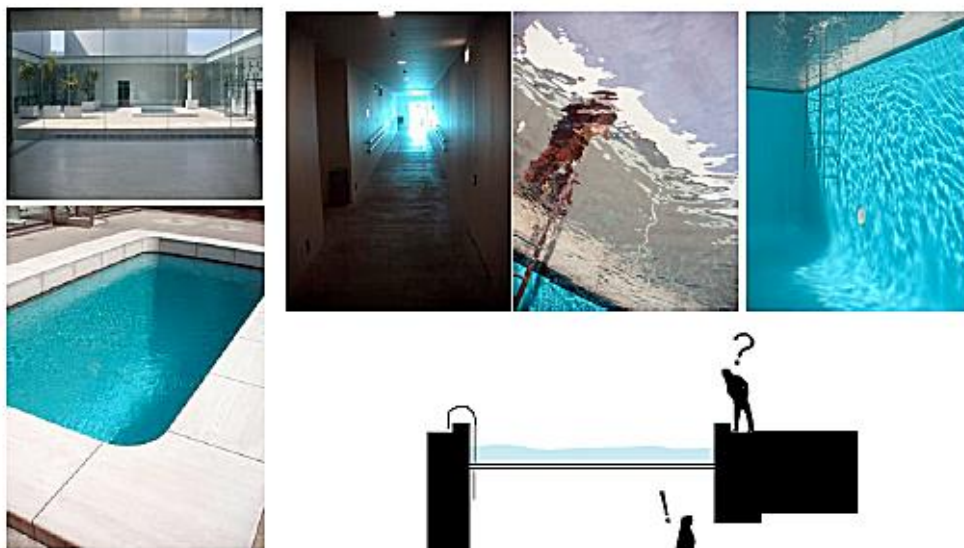


ただ単純なのではない。
考えられた結果、
成立したシンプルさ。



水の中の体験

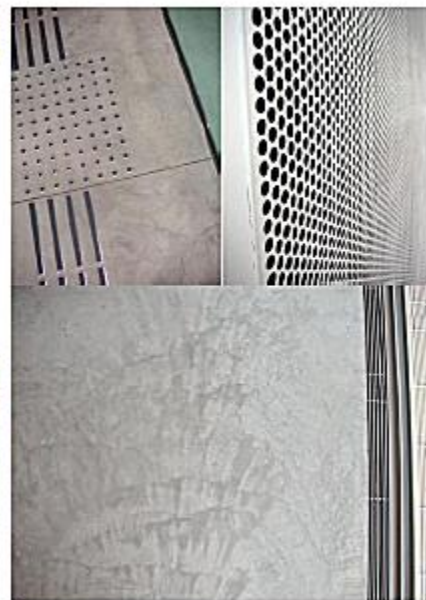
中庭の一つにプールがある。
美術館のプール。
一見素朴すぎて不思議。
しかし、ある展示室から地下に続く階段を降りると
プールの中に入る入り口がある。
プールの空間に揺らめく空。
水によって乱反射した日光がプールの底にゆらゆら模様をつくる。
水の中の体験。



油圧式エレベーター

地下と1階をつなぐエレベーター。
エレベーターが地下にいるとき、よけいな囲いもロープもなく、
まさにハコがぐぐっと押し上げられるようにあがる。

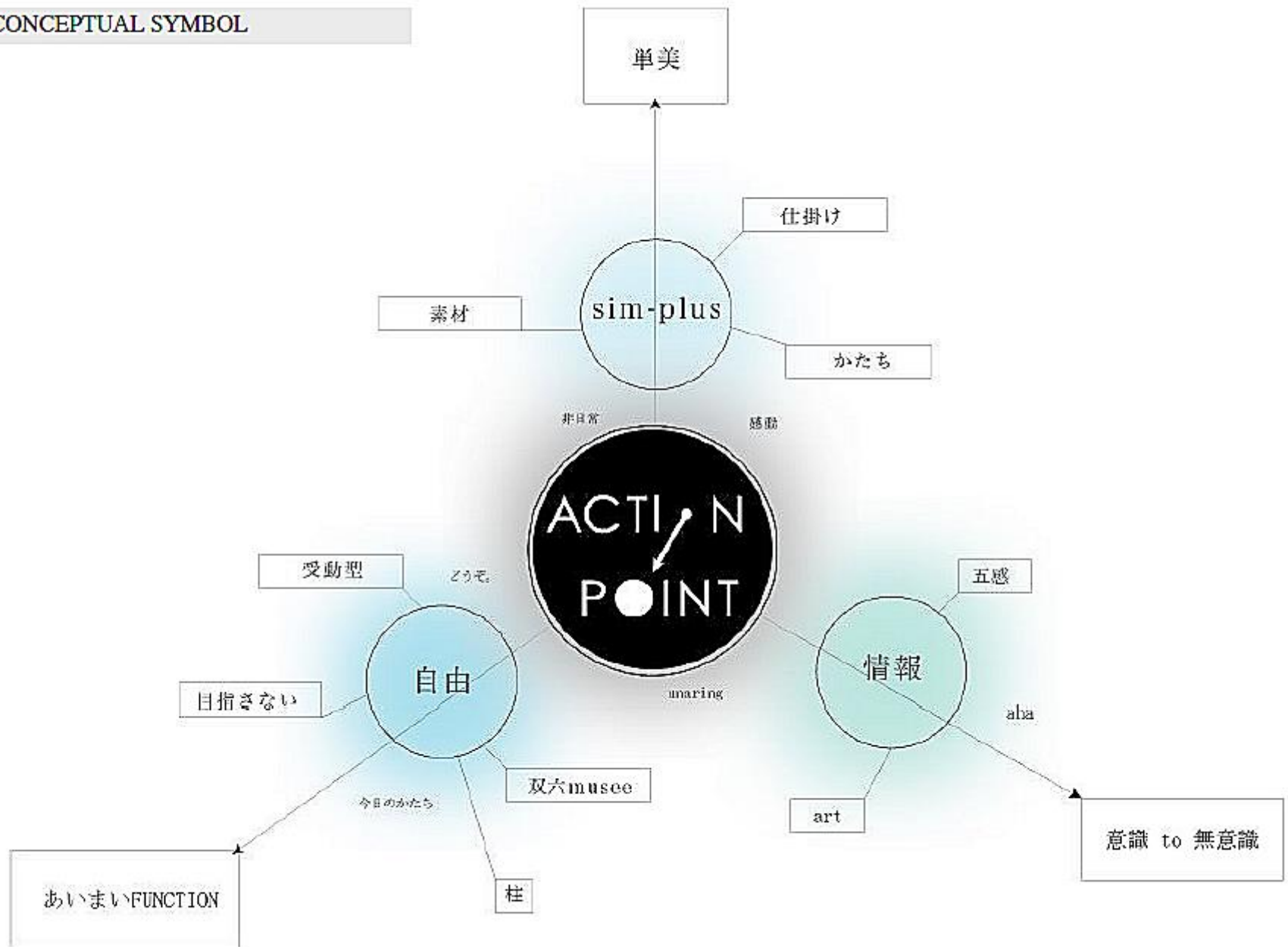
持ち上げる、下ろす。力が一方方向からしか及んでいないから、
また油圧式ということもあって
とてもゆっくりな動き。
乗り込んで、動き出すと「出発した」感じがするし、
目的のフロアにつくと「到着した」と実感。
スピードや効率を目指さない、アナログな印象。



すべてをデザイン要素にとりこむ

美術館の周囲を囲む芝生の庭。
排水溝も建物のカーブに沿って伸び、庭の一部になっている。
換気口や、点字ブロック。
建物が成り立つために必要な様々なものまで、
美しさにこだわって仕上げてある。

CONCEPTUAL SYMBOL



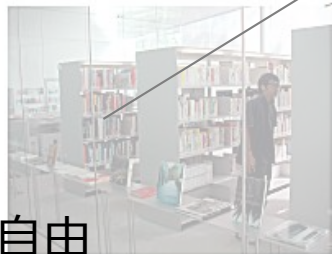
Simpleの追求

Plan

- 中庭 (光庭)
- 展示室
- 有料ゾーン

- 1 受付
- 2 アートライブラリー
- 3 カフェ
- 4 展示室
- 5 展示室
- 6 ミュージアムショップ
- 7 レクチャーホール

意識する情報



曖昧性の中の自由

能動軸 ; 形式性

具象的機能



意味軸 ; 関係性



境界軸 ; 観念性



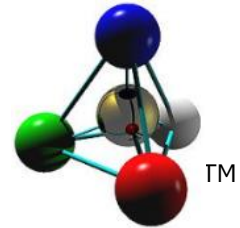
無意識に感受する情報



Action Point
 美術という切り口
 による能動型空間が新しい

しかけの仕込み





Life field of Creation

2005-2018

概念デザイン研空所 山口泰幸

〒 252-0802

神奈川県藤沢市高倉586

Tel/Fax 0466-43-4713

Email taizan@gainendesign.com

HP <http://www.gainendesign.com/>